

令和4年度（2022年度）

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書(シラバス)

筑波保育医療専門学校

作成：教務部

1. こども学科

科目名	保育内容（言葉）
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「言葉」の意義について 2. 「言葉」のねらいの内容 3. 子どもの言葉と発達 4. 子どもの言葉と環境 5. 保育者の指導・支援（援助） 6. 言葉のかかわりに配慮を必要とする子どもの援助・指導・評価 7. 保育者の言葉 8. 言葉と児童文化財（教材研究） 9. 言葉あそび（模擬保育） 10. 実技の方法（模擬保育と評価） 11. 「言葉」の指導計画 12. まとめ 13. 模擬保育による検討、発表・ディスカッション 	
使用テキスト・参考文献	駒井美智子「保育者をめざす人の保育内容『言葉』」株式会社 みらい
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育内容（環境）
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境および環境設定について理解する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と領域「環境」について 2. 領域「環境」をさらに深く理解する 3. 幼児の成長発達の特徴を知る 4. 保育者の感性と保育デザイン 5. 保育環境とはどのようなものか理解する 6. 子どもの育ちを支える園環境1（園舎） 7. 子どもの育ちを支える園環境2（園庭） 8. 自然環境を考える1 9. 自然環境を考える2 10. 領域「環境」の内容および対象を理解するため、情報機器及び教材特性の理解や保育者の価値観・生活観が反映された教材研究を行う 11. 模擬保育による検討1 12. 模擬保育による検討2 13. 幼児の科学的態度の育成について 14. 幼児の文字・数量・記号等の援助について 15. 幼児の環境教育について 	
使用テキスト・参考文献	谷田貝公昭「コンパクト版 保育内容シリーズ3 環境」一藝社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育内容（表現）
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「表現」の歴史的変遷について調べまとめる 2. 領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する 3. 表現する身体の獲得のため、バランスのとれた身体とはどのようなものか理解する 4. わらべうた等、あそびと一体となった歌について調べる 5. 子どもの歌を分析することで、特徴と魅力を理解する 6. 季節に着目し、行事やそれにかかわる動植物・自然・いのち等について観察し、考察する 7. 造形に対する感性と表現について理解する 8. 造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する 9. 音・音楽に対する感性と表現について理解する 10. 音・音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する 11. 子どもの豊かな感性と表現を育むために、どのような環境を整えるべきなのか、環境と表現のかかわりについて理解する 12. 表現を育てる保育者の役割と保育教材について考察する 13. 領域「表現」のねらいや内容を参考に、「表現」を育む指導案を立案し実践する 14. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける 15. 保育内容「表現」のこれまでと今後の課題について考察する 	
使用テキスト・参考文献	平田智久 他「最新保育講座11 保育内容『表現』」ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	幼児理解
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児をとらえる保育者としての基本的な姿勢についての理解を深める 2. 幼児をとらえる視点としての内面の理解、発達理解について学ぶ 3. 保育における「環境」という概念について学び、環境を構成することの重要性を考える 4. 保育における効果的な環境構成と保育実践について考える 5. 子どもや保育にとって「遊び」とはどのような意味を持つのか考える 6. 保育における遊びを通じた総合的指導とは何かについて考える 7. 集団で生活する中での育ちの特徴、集団の中で育つ個人の育ちについて考える 8. 保育集団の作り方や一日の過ごし方など、保育形態について学ぶ 9. 入園当初の時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ 10. 仲間と協力し合い、学びあう時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ 11. 保育における指導計画やその実際、効果的な記録について学ぶ 12. 保育における様々な行事を行う目的と保育の中での活かし方について学ぶ 13. 様々な機関や人と連携しながら子どもの育ちを援助することについて考える 14. 障害や文化の違いなど、違いを受け入れながら共に育つための保育について考える 15. 保育者としての成長や子ども理解、実践の深まりとはどのようなものか考える 	
使用テキスト・参考文献	森上史郎 他「保育方法・指導法の研究（新・保育講座 6）」 ミネルヴァ書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	音楽基礎 I
授業の種類	講義・実習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	長島律子 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※病院・大学等でピアノを使った非常勤講師の経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識・技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 五線譜の読み方 2. 音符・休符、リズム・拍 3. さまざまな用語と記号 4. 音階と調 5. わらべ歌等の歌の特徴、歴史的背景に触れながら考察する <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 実技試験

科目名	音楽基礎Ⅱ
授業の種類	講義・実習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	長島律子 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※病院・大学等でピアノを使った非常勤講師の経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>「音楽基礎Ⅰ」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育等の現場における活動（園行事、学校行事等）について 2. 音楽指導の際に必要なと思われる事項（音楽理論、発達段階、年齢区分、行事等との関連） 3. 音楽活動の必要性 4. 保育・教育等の現場における音楽活動の必要性について考察する <p>《ピアノ実習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「標準バイエルピアノ教則本」より各個人の深度に応じた曲を練習する 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 実技試験

科目名	保育者・教師論
授業の種類	講義
授業時間数	20 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割・職務内容と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを育てる二つのコースと制度としての保育（保育の意味） 2. 社会の変化と保育ニーズ（保育の現状理解） 3. 子ども観、保育観の重要性 1（保育者の人間性） 4. 子ども観、保育観の重要性 2（西欧の思想に学ぶ） 5. 子ども観、保育観の重要性 3（日本の思想に学ぶ） 6. 保育者と制度 1（保育者の制度的地位） 7. 保育者と制度 2（保育士取得要件、幼稚園教諭取得の要件） 8. 幼稚園教諭に求められる能力と職務内容の概要 9. 保育士に求められる能力と職務内容の概要 10. 保育者の役割と専門性（望ましい資質） 11. 保育者に求められる専門性（保護者支援） 12. 期待される保育者 1（成長する保育者） 13. 期待される保育者 2（社会のニーズへ対応） 14. 保育者の職務と倫理 15. 今後の保育制度の同行と保育者の在り方 	
使用テキスト・参考文献	民秋言編「保育者論」建帛社 文部科学省「幼稚園教育要領」 文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出

科目名	教育原理
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>教育という営みに関心があり、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育(学)の基本的な概念と基礎理論について概括することとおして、教育の意義と目的、教育の歴史及び思想、我が国の学校教育制度、発達段階に応じた指導原理、家庭教育及び地域教育の意義等について学ぶことを目的にする。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の基本原則 1 (人間形成と教育の本質 他) 2. 教育の基本原則 2 (人間教育の可能性 他) 3. 西洋の教育の制度と思想の歴史 1 (古代の教育 他) 4. 西洋の教育の制度と思想の歴史 2 (産業革命と教育 他) 5. 日本の教育の制度と思想の歴史 1 (近世の教育 他) 6. 日本の教育の制度と思想の歴史 2 (大正期の教育運動 他) 7. 発達と教育 1 (発達の意味 他) 8. 発達と教育 2 (子どもの発達段階に即して親や教師が心掛けること 他) 9. 家庭・地域教育 1 (家庭教育の意義と特色 他) 10. 家庭・地域教育 2 (家庭・地域社会の課題 他) 11. 新学習指導要領等の特徴 1 (保育所保育方針の特徴 他) 12. 新学習指導要領等の特徴 2 (小学校等学習指導要領の特徴と課題) 13. 現代教育の課題 1 (現代社会における教育的課題 他) 14. 現代教育の課題 2 (教育環境の変化と課題について 他) 15. 現代教育の課題 3 (教師の課題 他) 	
使用テキスト・参考文献	広岡義之「新しい教育原理」ミネルヴァ書房 文部科学省「幼稚園教育要領」 文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
評価の基準・方法	小論文(レポート)提出 試験

科目名	こどもの音楽 I
授業の種類	実習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	長島律子 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※病院・大学等でピアノを使った非常勤講師の経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>音楽基礎Ⅰ・音楽基礎Ⅱで学んだ楽典および身に付けた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエルまたはブルグミュラーの課題曲を事前に練習しておくことが必要 2. 集団での器楽合奏も行う 3. 課題曲「バイエル 78 番」 4. 課題曲「バイエル 80 番」 5. 課題曲「バイエル 88 番」 6. 課題曲「ブルグミュラー第 2 番『アラベスク』」 7. 課題曲「おべんとう」 8. 課題曲「おかえりのうた」 9. 課題曲「こいのぼり」 10. 課題曲「世界中の子どもたちが」 11. 課題曲「あわてん坊のサンタクロース」 12. 課題曲「とんでったバナナ」 13. 上記課題曲弾き歌いの繰り返し練習 	
使用テキスト・参考文献	石橋裕子 他「新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」北大路書房 楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社 楽譜：「ブルグミュラー/25 の練習曲」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

科目名	幼稚園教育実習指導 I
授業の種類	講義・演習
授業時間数	15 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身に付ける。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意味 2. 子ども理解と援助・支援技術の理解 3. 実習に必要な心構え、マナー、資質の理解 4. 指導案記入に必要な事項について 5. 子どもの活動と教師の援助、支援について 6. 指導案一枚の中の関連について 7. 題材・活動内容等の記入について 8. 援助・支援等の工夫について 9. 模擬保育・授業の実施について 1 10. 模擬保育・授業の実施について 2 11. 模擬保育・授業の実施について 3 12. 子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察について 1 13. 子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察について 2 14. 目指す授業と自己課題の再設定 15. まとめ 	
使用テキスト・参考文献	東京福祉大学「教育実習（初等）の手引き」
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	幼児教育方法論
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼児期における保育方法の基礎的な理論と実践について学習する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本的理念、子ども観や保育観についての理解を深める 2. 幼児期にふさわしい教育の基本としての「環境」について、その意義と環境構成の方法について具体的に学ぶ 3. 幼児期にふさわしい生活をとらえる視点としての「遊び」について、特性、遊びの中の学び、総合的な指導について学ぶ 4. 幼児期の特徴としての主体性について考える 5. 遊びに含まれる「感じる・気づく・試す」という視点で遊びをとらえたとき、どのような学びの可能性があるか考える 6. 「環境を通しての教育」を展開するために、幼児の興味・関心、自発的な活動を引き出す遊具、材料、場や空間の構成、雰囲気等の具体的な理解を深める 7. 多様な保育形態について調べる 8. 保育のねらいや内容、環境の構成と幼児の活動、保育者の援助などを理解し、一日の指導計画を作成する 9. さまざまな保育記録の事例を通して効果的な記録のあり方を検討する 10. 「メディアの受信者・活用者・発信者」としての乳幼児の能力発達について理解を深める 11. 幼児理解や保護者との連携、幼稚園の運営等への情報機器の効果的な活用の仕方を学ぶ 12. 幼稚園・保育所における子どもの活動の様子と就学後の小学校での様子の映像による理解 13. 多様な連携の方法（面談の方法、便りの事例など）を具体的に理解 14. 身近な地域の資源の活用例の情報交換などを理解する 15. 近年の子育て環境の変化、保育者の役割、今後に向けての保育理念等について 	
使用テキスト・参考文献	小田豊 他「保育の方法・内容を知る 幼児教育の方法」北大路書房
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	こどもの音楽Ⅱ
授業の種類	実習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	長島律子 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※病院・大学等でピアノを使った非常勤講師の経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>音楽基礎Ⅱをふまえたピアノの練習を行う。</p> <p>《ピアノ実習》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイエル 35 番・55 番 2. バイエル 37 番・59 番 3. バイエル 39 番・66 番 4. バイエル 46 番・73 番 5. バイエル 49 番・77 番 6. ピアノ個人レッスン 7. 簡単な伴奏での弾き歌い 8. コードネームによる和音伴奏での弾き歌い 	
使用テキスト・参考文献	楽譜：「標準バイエルピアノ教則本」全音楽譜出版社
評価の基準・方法	実技試験

科目名	保育実習 I (保育所)
授業の種類	実習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育所の生活に参加して、乳幼児への理解を深める。保育所の機能とそこでの保育士の役割について理解し、保育所全体の役割を把握する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割、機能について概要を理解する 2. 保育所の1日の流れを理解する。さらに、実際の保育実践に参加し、乳幼児と行動を共にすることにより、生活状況を把握する 3. 乳幼児の観察や乳幼児とのかかわりを通して、乳幼児の発達を理解する 4. 遊びなど生活の一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 保育所における保育計画・指導計画を理解する 6. 保育士としての職業倫理を学ぶ 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	保育実習 I (施設)
授業の種類	実習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>施設の生活に参加して、児童への理解を深める。施設の機能とそこでの保育士の役割について理解し、施設全体の役割を把握する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割、機能について概要を理解する 2. 施設の 1 日の流れを理解する。さらに、実際の保育実践に参加し、児童と行動を共にすることにより、生活状況を把握する 3. 児童の観察や児童とのかかわりを通して、児童の発達を理解する 4. 遊びなど生活の一部を担当し、保育技術を習得する。 5. 施設における保育計画・指導計画を理解する 6. 保育士としての職業倫理を学ぶ 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	保育実習Ⅱ（保育所）
授業の種類	実習
授業時間数	90 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育活動を実践しながら、保育士として必要な態度・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態に触れて、乳幼児と家庭および地域との関係に対する理解力、判断力を養うと共に、子育て支援に必要とされる能力を養う。さらに、将来あるべき保育士の姿を絶えず自らに問いかけながら、子ども・児童観を養う。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の保育活動に参加し、保育技術を習得する 2. 乳幼児の個人差について理解する。特に発達の遅れや生活環境に伴う乳幼児のニーズを理解し、その対応について学ぶ 3. 学生自ら指導計画を立案し、それを基に実践する 4. 地域社会に対する理解を深め、地域社会との連携の方法について具体的に学ぶ 5. 保育士としての職業倫理を具体的に学び、身に付ける 6. 保育士に求められる態度・能力・技術に照らし合わせて、自分自身の課題を明確にする 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	幼稚園教育実習 I
授業の種類	実習
授業時間数	80 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園で行う教育実習であり、実際に幼稚園の現場での保育を観察・経験する。現場での実践力を高める実習となる。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを通し、実習園の概要や園目標を知る 2. 実習課題をもって日々の実習に臨む 3. 子どもとのかかわり方の基礎を学ぶ 4. 一人ひとりの子どもの育ちの違いを通して、子どもを理解する 5. 教諭としての職務内容や役割、指導技術などを観察し理解する 6. 保育の事前準備、遊具や玩具、保育室の装飾など、物的環境のあり方を学ぶ 7. 保育に参加し、部分的に実際の指導を経験する 8. 学級運営に必要な事務内容を知る 9. 学んだことを記録に残し、「幼稚園教育実習Ⅱ」に活かす 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	幼稚園教育実習Ⅱ
授業の種類	実習
授業時間数	80 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園で行う教育実習であり、実際に幼稚園の現場での保育を観察・経験する。現場での実践力を高める実習となる。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目標（テーマ）をもって実習に臨み、子どもと積極的にかかわる 2. 一人ひとりの子どもの育ちの違いを見つめ、子どもの理解を深める 3. 教諭としての職務内容や役割、職員間のチームワークを体験から学ぶ 4. 責任実習において、指導案の立案、保育展開のための事前準備、実際の指導を経験し、事後の課題を見いだす 5. 保育内容や季節によって変化する、遊具や玩具、保育室の装飾など、物的環境のあり方を学ぶ 6. 実習園の地域的環境に目を向け、地域社会との子育ての連携を学ぶ 7. 家庭との連絡の取り方、学級事務の処理方法を知る 8. 園行事等に役割を持ち、積極的に体験する 9. 学んだことを記録に残し、これからの研究に活かす 	
使用テキスト・参考文献	—
評価の基準・方法	規程時間数の実習 実習日誌の提出による評価

科目名	幼稚園教育実習指導Ⅱ
授業の種類	講義・演習
授業時間数	15 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>幼稚園教育実習の反省や評価をもとに、これまで修得した専門知識を振り返り、幼児の生活や発達の理解、幼児の発達を促す指導のあり方についての学修を演習を通して一層深めていく。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園教育実習の感想および課題等をまとめる 2. 実習体験を振り返りながら、「実習の手引き」を参考に、「実習について」「実習生として」「実習に役立つ知識・危機管理」など、幼稚園実習の基礎・基本について要点をまとめる 3. 幼小の連携について、その考え方や検討すべき課題、具体的な連携の例について調べる 4. 幼児教育をめぐる問題について調べ、幼児の生活や発達に及ぼす影響、また幼稚園において取り組むべき課題などについて整理する 5. 「環境を通して行う教育」の意義について復習し、理解を深める 6. 3歳児～5歳児について、年齢別の生活や発達の特徴、指導のポイントなどについてまとめる 7. 実習体験を振り返り、部分実習指導案の作成に関わる自身の課題を明らかにする 8. 幼稚園の一日を想像しながら、実習生の役割や留意点等を調べる 9. 模擬保育指導案の作成に向けて、対象年齢、幼児の姿、季節や時期、幼稚園の規模、紙芝居・歌・手遊びなどの活動、食事の仕方、登園時刻や降園時刻、一日の時間の区切り方などを検討する 10. 模擬保育指導案の作成と教材研究1（教材の作成や準備など） 11. 模擬保育指導案の作成と教材研究2（試作や実践練習） 12. 模擬保育指導案について検討会 13. 模擬保育指導案の改善と教材研究 14. 指導の改善充実生きる記録の取り方や反省・評価の仕方について調べる 15. 保育者としての専門性をより向上させるために、今後力を入れて取り組みたいことをまとめる 	
使用テキスト・参考文献	東京福祉大学「教育実習（初等）の手引き」
評価の基準・方法	授業後の確認試験および提出物により

科目名	保育表現技術演習
授業の種類	講義・演習
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>保育における言語的な表現技術を学修し、保育に関する基礎理論、保育内容、保育技能等、学修した知識・技能をこの保育表現技術の中で活かし、それらの体験を通して、保育における表現技術をスキルアップし、総合的に深めていくことを目的としている。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスの確認、授業展開および期末課題の確認 2. 保育の質と組織活性化について 3. 保育教材の意義と保育活動における教材の必要性について 4. 保育教材の三機能について（教育性・興味性・児童性） 5. 保育教材の支援と援助について 6. 保育教材の必要性について 7. 保育教材の作成企画について 8. 保育教材の作成1（紙芝居・エプロンシアターなどの作成） 9. 保育教材の作成2（絵本・手遊びなどの作成） 10. 保育教材の実践 11. 保育教材の実践の反省と課題1（課題について整理しまとめる） 12. 保育教材の実践の反省と課題2（効果についてまとめる） 13. 保育教材の実践の反省と課題2（まとめ） 14. 幼児の発達段階に即した保育教材とは何か、整理しまとめる 15. 保育者の表現力を育てるにはどうしたらよいか 	
使用テキスト・参考文献	駒井美智子 他「すぐに使える笑顔いっぱい遊びのレシピ」 大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

科目名	保育・教職実践演習
授業の種類	講義・演習
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	高安友美 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※保育園等で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、および専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることが、この科目の目標である。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的スキルとはどのようなことかをまとめる 2. 子どもの最善の利益を考慮した保育について 3. 幼児教育者に求められているもの1（日本の子育て環境の問題点について） 4. 幼児教育者に求められているもの2（日本の保育制度の問題点について） 5. 幼児教育者に求められているもの3（保育環境の問題点を補うための方策） 6. 保育環境の改善1（子どもの安心と安全のための環境） 7. 保育環境の改善2（子どもの活動発展のための環境） 8. 保育環境の改善3（地域との連携協力） 9. 総合的な実践の結びつき1（保育者としての基本的なふるまい方） 10. 総合的な実践の結びつき2（子どもの内面理解と受容） 11. 総合的な実践の結びつき3（子どもの活動発展のためのかかわり） 12. 総合的な実践の結びつき4（保護者とのかかわり） 13. 総合的な実践の結びつき5（保育教材の創意工夫） 14. 保育者としての向上1（常に他に対しての開放的・建設的な態度、向上心を形成する） 15. 保育者としての向上2（保育者としての自己課題、長所短所の整理などを通して、保育者としての自覚を促す） 	
使用テキスト・参考文献	横山文樹、駒井美智子 編著「保育・教職実践演習」大学図書出版 社会福祉法人日本保育協会「保育所保育指針」 文部科学省「幼稚園教育要領 解説」フレーベル館 福本俊監修、駒井美智子 他著「幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック」大学図書出版
評価の基準・方法	小論文（レポート）提出 試験

2. 経理ビジネス学科

科目名	文書処理実習 I
授業の種類	実習
授業時間数	64 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	鈴木隆 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※量販店の事務で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>Word はビジネスだけではなく日常生活全般で使用される文書作成ツールである。基本操作を確認し、レポート、論文、ちらしなど、日常生活を効率よく豊かにするツールとしての活用方法の習得を目的とする。また、全国経理教育協会の文書処理能力検定ワープロを受験・合格するための演習時間も含む。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Word の基礎知識、日本語入力システムの設定 2. 文字の入力、文章の入力、入力の訂正、特殊な入力方法 3. 書式設定、文書の保存と読み込み、印刷設定、複写・削除・移動 4. 編集機能（1） 5. 編集機能（2） 6. 表の作成と編集 7. クリップアート、ワードアートの挿入 8. 図形描画 9. スマートアート 10. 段組み、ドロップキャップ、ページ罫線 11. グラフの挿入・編集 12. 検定対策演習① 13. 検定対策演習② 14. 検定対策演習③ 15. 検定対策演習④ 	
使用テキスト・参考文献	実教出版 「30 時間でマスターWord2016」 全経出版 「文書処理能力検定試験 過去問題集ワープロ」3 級・2 級
評価の基準・方法	試験

科目名	表計算実習 I
授業の種類	実習
授業時間数	64 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	鈴木隆 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※量販店の事務で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>学科専門科目学習時に表計算ソフトを利用し簡単なデータ整理、統計処理、グラフ化およびデータベース機能を利用できるようになること、および表計算ソフトの利用可能事例や問題点について理解することを目標とする。また、全国経理教育協会の文書処理能力検定表計算を受験・合格するための演習時間も含む。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Excel の起動・終了および表示画面の解説 2. セルへの入力、数値・計算式の入力および自動計算、文字の入力 3. 式のコピーと相対参照 4. 絶対参照の利用 5. オートフィル、レイアウト機能 6. 様々なグラフ作成と編集 7. データの並べ替え・抽出とデータベース 8. 関数の利用① 9. 関数の利用② 10. 関数の利用③ 11. 複合参照、ハイパーリンク、その他 12. 検定対策演習① 13. 検定対策演習② 14. 検定対策演習③ 15. 検定対策演習④ 	
使用テキスト・参考文献	実教出版 「30 時間でマスター Excel2016」 全経出版 「文書処理能力検定試験 過去問題集表計算」 3 級・2 級
評価の基準・方法	試験

科目名	PowerPoint 実習
授業の種類	実習
授業時間数	64 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	鈴木隆 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※量販店の事務で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>広くプレゼンテーションの手段として使用される PowerPoint。その利用法や効果的なプレゼン資料の作成方法などを学習する。また、Microsoft Office Specialist PowerPoint 資格の受験・合格までの演習時間も含む。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PowerPoint の起動・終了および表示画面の解説 2. スライドの挿入と変更 3. スライドの並べ替えとグループ化 4. テキストの書式設定 5. 図（グラフィック要素）の挿入と書式設定 6. 表の挿入と書式設定 7. グラフの挿入と書式設定 8. SmartArt の挿入と書式設定 9. メディアの挿入と書式設定 10. 画面切り替え効果の設定 11. アニメーションの設定 12. スライドショーの設定とリハーサル 13. 配付資料、ノートの設定 14. オプション設定とリンクの挿入 15. 印刷設定と各種設定 	
使用テキスト・参考文献	オリジナルテキスト（レジュメ） 日経 BP 「MOS 攻略問題集 PowerPoint365&2019」
評価の基準・方法	試験

科目名	経理実務
授業の種類	講義
授業時間数	60 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	佐藤望 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※行政書士事務所で勤務
<p>《科目概要》</p> <p>労働基準法に基づく法律知識を基本として、労務管理業務を行う者が、現実の職場に起きた問題を正しく判断し、法律知識と人間性に基づく解決策を見出すために学習することを目的とする。人の採用・退職から就業規則の作成・変更及び労働基準監督署への届出、労働災害の対策実務、解雇の制限と決定の手続き等を行える能力を習得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業を始めるとき 2. 労働者を募集・採用するとき 3. 就業規則 4. 労働時間・休憩・休日・休暇 5. 賃金 6. 安全衛生に関する手続 7. 労働災害が発生したときは 8. 解雇するとき、退職するとき 9. 未成年者を雇うとき 10. 女性労働者を雇うとき 11. パートタイマーを雇うとき 12. 契約社員を雇うとき 13. 派遣労働者を派遣するとき、受け入れるとき 14. その他の働く人の特性に応じたルール 15. 労使間でトラブルが発生したとき 	
使用テキスト・参考文献	公益社団法人全国労働基準関係団体連合会 編著・発行「知らなきゃトラブる！労働基準関係法の要点」
評価の基準・方法	試験

3. オフィス事務管理学科

科目名	文書処理実習 I
授業の種類	実習
授業時間数	64 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	鈴木隆 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※量販店の事務で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>Word はビジネスだけではなく日常生活全般で使用される文書作成ツールである。基本操作を確認し、レポート、論文、ちらしなど、日常生活を効率よく豊かにするツールとしての活用方法の習得を目的とする。また、全国経理教育協会の文書処理能力検定ワープロを受験・合格するための演習時間も含む。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Word の基礎知識、日本語入力システムの設定 2. 文字の入力、文章の入力、入力の訂正、特殊な入力方法 3. 書式設定、文書の保存と読み込み、印刷設定、複写・削除・移動 4. 編集機能（1） 5. 編集機能（2） 6. 表の作成と編集 7. クリップアート、ワードアートの挿入 8. 図形描画 9. スマートアート 10. 段組み、ドロップキャップ、ページ罫線 11. グラフの挿入・編集 12. 検定対策演習① 13. 検定対策演習② 14. 検定対策演習③ 15. 検定対策演習④ 	
使用テキスト・参考文献	実教出版 「30 時間でマスターWord2016」 全経出版 「文書処理能力検定試験 過去問題集ワープロ」3 級・2 級
評価の基準・方法	試験

科目名	表計算実習 I
授業の種類	実習
授業時間数	64 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	鈴木隆 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※量販店の事務で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>学科専門科目学習時に表計算ソフトを利用し簡単なデータ整理、統計処理、グラフ化およびデータベース機能を利用できるようになること、および表計算ソフトの利用可能事例や問題点について理解することを目標とする。また、全国経理教育協会の文書処理能力検定表計算を受験・合格するための演習時間も含む。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Excel の起動・終了および表示画面の解説 2. セルへの入力、数値・計算式の入力および自動計算、文字の入力 3. 式のコピーと相対参照 4. 絶対参照の利用 5. オートフィル、レイアウト機能 6. 様々なグラフ作成と編集 7. データの並べ替え・抽出とデータベース 8. 関数の利用① 9. 関数の利用② 10. 関数の利用③ 11. 複合参照、ハイパーリンク、その他 12. 検定対策演習① 13. 検定対策演習② 14. 検定対策演習③ 15. 検定対策演習④ 	
使用テキスト・参考文献	実教出版 「30 時間でマスター Excel2016」 全経出版 「文書処理能力検定試験 過去問題集表計算」 3 級・2 級
評価の基準・方法	試験

科目名	PowerPoint 実習
授業の種類	実習
授業時間数	64 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	鈴木隆 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※量販店の事務で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>広くプレゼンテーションの手段として使用される PowerPoint。その利用法や効果的なプレゼン資料の作成方法などを学習する。また、Microsoft Office Specialist PowerPoint 資格の受験・合格までの演習時間も含む。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PowerPoint の起動・終了および表示画面の解説 2. スライドの挿入と変更 3. スライドの並べ替えとグループ化 4. テキストの書式設定 5. 図（グラフィック要素）の挿入と書式設定 6. 表の挿入と書式設定 7. グラフの挿入と書式設定 8. SmartArt の挿入と書式設定 9. メディアの挿入と書式設定 10. 画面切り替え効果の設定 11. アニメーションの設定 12. スライドショーの設定とリハーサル 13. 配付資料、ノートの設定 14. オプション設定とリンクの挿入 15. 印刷設定と各種設定 	
使用テキスト・参考文献	オリジナルテキスト（レジュメ） 日経 BP 「MOS 攻略問題集 PowerPoint365&2019」
評価の基準・方法	試験

科目名	経理実務
授業の種類	講義
授業時間数	60 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	佐藤望 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※行政書士事務所で勤務
<p>《科目概要》</p> <p>労働基準法に基づく法律知識を基本として、労務管理業務を行う者が、現実の職場に起きた問題を正しく判断し、法律知識と人間性に基づく解決策を見出すために学習することを目的とする。人の採用・退職から就業規則の作成・変更及び労働基準監督署への届出、労働災害の対策実務、解雇の制限と決定の手続き等を行える能力を習得する。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業を始めるとき 2. 労働者を募集・採用するとき 3. 就業規則 4. 労働時間・休憩・休日・休暇 5. 賃金 6. 安全衛生に関する手続 7. 労働災害が発生したときは 8. 解雇するとき、退職するとき 9. 未成年者を雇うとき 10. 女性労働者を雇うとき 11. パートタイマーを雇うとき 12. 契約社員を雇うとき 13. 派遣労働者を派遣するとき、受け入れるとき 14. その他の働く人の特性に応じたルール 15. 労使間でトラブルが発生したとき 	
使用テキスト・参考文献	公益社団法人全国労働基準関係団体連合会 編著・発行「知らなきゃトラブる！労働基準関係法の要点」
評価の基準・方法	試験

4. メディカル事務管理学科

科目名	医療事務 I
授業の種類	講義
授業時間数	330 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	寺田彩乃 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※医療系・調剤系の企業で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>医療事務 I では、保険診療の根幹である診療報酬点数の算定についての技法を学習する。</p> <p>保険診療による診療費は、医科診療報酬点数表により算定される。医科診療報酬点数表には、注射や検査など、診療行為ごとに算定方法や点数が定められている。</p> <p>この点数表により、保険診療で診療を行っている医療機関では、どこの医療機関でも同じ診療行為であれば同じ点数を算定することになる。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 点数表の読み方 2. 初診料と再診料 3. 医学管理等 4. 在宅医療 5. 処置 6. 手術 7. 麻酔 8. 検査 9. 病理診断 10. リハビリテーション 11. 精神科専門療法 12. 放射線治療 13. 入院料等 14. 投薬（処方箋） 15. 注射および画像診断 	
使用テキスト・参考文献	ニチイ学館 「医療事務講座 医科テキスト 3 診療報酬点数算定」
評価の基準・方法	試験

科目名	医療関連法規
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	寺田彩乃 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※医療系・調剤系の企業で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>医療関連法規では、医療保険制度について学習する。</p> <p>医療保険制度は、社会的要請によって必然的に生み出され、社会保障制度の中核として日本だけでなく広く世界の近代国家が、一様にその整備拡充を目指す普遍的な制度である。今日、医療保険がいろいろな方面から大きく問題として取り上げられるようになったことは、日本がよりすぐれた福祉国家に脱皮し、あるいは成長していくための動きであるとも言える。そして、今後、社会福祉制度の発展と共に、医療保険制度はより拡充、合理化への道を歩むに違いなく、同時に、医療事務専門職は益々その必要性和価値が高まるものと推測できる。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療機関と医療事務 2. 医療保険とは 3. 医療保険の種類 4. 後期高齢者医療制度とは 5. 診療報酬（点数単価方式） 6. 診療報酬（窓口徴収） 7. 診療報酬（診療報酬請求） 8. 公費負担医療制度とは 9. 介護保険制度とは 10. 健康保険法の概要 11. 医療機関の分類 12. 電子カルテシステム 13. 保険外併用療養費 14. DPC制度とは 15. 医療費助成制度と労災 	
使用テキスト・参考文献	ニチイ学館 「医療事務講座 医科・歯科テキスト1 医療保険制度」
評価の基準・方法	試験

科目名	医学一般 I
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	寺田彩乃 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※医療系・調剤系の企業で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>医学一般とは、基礎医学、臨床医学および社会医学を総合的に融和させて医学の知識をまとめた学問である。</p> <p>基礎医学とは、病気の予防、診断および治療を行うための基礎となる学問のことである。</p> <p>臨床医学とは、直接患者を診断、治療を目的とする医学のことである。</p> <p>社会医学とは、社会的因子と人の病気の関わりを研究し、保健対策を講じる学問のことである。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について 2. 診断から治療の流れ 3. 神経系の構造・生理及び疾患例 4. 循環器系の構造・生理及び疾患例 5. 呼吸器系の構造・生理及び疾患例 6. 消化器系の構造・生理及び疾患例 7. 血液系の構造・生理及び疾患例 8. 腎・泌尿器系の構造・生理及び疾患例 9. 内分泌系の構造・生理及び疾患例 10. アレルギー・免疫系の構造・生理及び疾患例 11. 感覚器の構造・生理及び疾患例 12. 骨・筋系の構造・生理及び疾患例 13. 代謝の仕組み及び疾患例 14. 感染のすすみ方と症状 15. 感染症の検査・治療・予防 	
使用テキスト・参考文献	ニチイ学館 「メディカルドクターズクラーク講座 テキスト 2 医学一般・薬学一般」
評価の基準・方法	試験

科目名	薬理学 I
授業の種類	講義
授業時間数	30 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	寺田彩乃 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※医療系・調剤系の企業で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>薬学一般とは、薬物の起源、治療薬の分類、薬物の人に対する作用及び効果のあらわれ方、使用方法など薬物に関するあらゆる情報を学ぶ学問領域である。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬品に関する公定書と法律 2. 薬の名称および種類 3. 医薬品と処方 4. 薬物療法と薬物の剤形 5. 神経系に作用する薬物 6. 循環器系に作用する薬物 7. 神経系に作用する薬物 8. 呼吸器系に作用する薬物 9. 消化器系に作用する薬物 10. 血液系に作用する薬物 11. 腎・泌尿器系に作用する薬物 12. 内分泌系に作用する薬物 13. 抗アレルギー薬 14. 皮膚および眼に作用する薬物 15. その他の主な薬物 	
使用テキスト・参考文献	ニチイ学館 「メディカルドクターズクラーク講座 テキスト2 医学一般・薬学一般」
評価の基準・方法	試験

科目名	接遇 I (患者様対応)
授業の種類	講義
授業時間数	60 単位時間
必修・選択	必修
授業担当者	寺田彩乃 ※実務経験のある教員等による授業科目 ※医療系・調剤系の企業で勤務経験あり
<p>《科目概要》</p> <p>接遇 I (患者様対応) は、病院で働く事務職員のための医師や上司、同僚などとのコミュニケーション・スキルについて、その必要性を理解することから始め、人間関係やマナーの基本を学び、さらに話すスキル、聞くスキル、読むスキル、書くスキルについて開発・向上を目的とする。</p> <p>《学修内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション・スキルとは 2. 医療機関におけるコミュニケーション・スキルの重要性 3. 病院組織における医療事務職員 (社会人としての基礎力) 4. 医療事務職員に求められる態度・振る舞い (社会人としての基礎力) 5. きちんとした話し方と挨拶 (話す) 6. 敬語、その他の言葉遣い (話す) 7. 話すときのポイントとタイミング (話す) 8. 報告・連絡・相談 (話す) 9. 聞くことの重要性および傾聴 (話す) 10. 聞くことの実際と留意点 (話す) 11. 読むコミュニケーションとは (読む) 12. 読解力、要約する力、専門的な基礎知識 (読む) 13. 文章を書くこと、メモを取る (書く) 14. レポート・報告書・文書 (書く) 15. 研究発表 	
使用テキスト・参考文献	オリジナルテキスト (レジュメ) 西文社 「医療事務職員のためのコミュニケーション・スキル」
評価の基準・方法	試験